

## 祝・日高山脈襟裳十勝国立公園指定 日高自然の森自然観察教育林

日高北部森林管理署

### 【日高自然の森自然観察教育林】

日高自然の森自然観察教育林は、日高山脈の北西部のふもと日高町日高地区に位置しています。



令和5年度にリニューアルした案内看板

**【地理的・地形的特徴】** 日高山脈は北海道中南部に位置する南北150km以上に及ぶ脊梁山脈で、北米プレートとユーラシアプレートの衝突が進行した結果、約1,300万年前から山脈が上昇し形成されたとされます。日高町日高地区は、日高山脈の形成により圧縮され地表にあらわれた中生代白亜紀の島弧一海溝系の地質と大西洋地域の地質を同じ場所で観察できる世界でも数少ない地域です。

**【歴史】** この森では、昭和12年～昭和29年まで、マンガン鉱、クロム鉱、石綿などの採掘が行われており、鉱石運搬路の造成に際し、沢水を迂回させるためのトンネルが掘られ、その出口にできた人工の滝が「サンゴの滝」です。この滝の名称は、トンネル工事に際して、「六射(ろくしゃ)サンゴ」の化石が発見されたことに由来します。この化石の存在は、8,500万年ものほのかな昔、ここが海の底であったという証拠となるものです。その後、昭和46年に、国民の保健休養の場として、「日高自然の森」が設定されました。

令和6年6月25日には、日高山脈襟裳十勝国立公園が誕生し、その区域に含まれました。

### 【森の楽しみ方】

なみだの滝を經由してサンゴの滝へと向かう散策コースには、樹名板が整備されており、多様な樹種を学べるとともに、大地の歴史が積み重なった様々な地層を観察し、河原では、ヒスイやクロム鉱などの岩石や鉱石を手にとり確かめることができます。野鳥や昆虫などの観察も楽しめるため、自然体験の場としても活用されています。国立日高青少年自然の家や日高山脈博物館では、この森をフィールドとした様々な体験メニューや観察会を提供しています。

### 【日高沙流川 オートキャンプ場】

近接している日高沙流川オートキャンプ場は、敷地面積が22万㎡あり、川遊びや森林浴が堪能できます。オートサイトが103区画、フリーテントサイトが100区画あり、バーベキューハウスやバンガロー、ピザ窯(予約制)などもあります。ドッグランも完備し、ペット同伴の利用も可能です。



### 【日高国際スキー場】

日高国際スキー場は、眼下に広がる日高町の街並みと芦別岳(あしべつだけ)や夕張岳(ゆうばりだけ)の眺望を楽しみながらパウダースノーをダイナミックに滑走できるだけでなく、夏は北日高岳登山や雲海が楽しめることから、多くの来訪者で賑わっています。



### 〈アクセス〉

- ・札幌駅(道央道占冠IC:約90分)→一般道(約15分)→日高自然の森自然観察教育林
- ・苫小牧(とまこまい)フェリーターミナル→一般道(約100分)→日高自然の森自然観察教育林
- ・帯広駅(占冠IC:約70分)→一般道(約15分)→日高自然の森自然観察教育林